

# 婦人と子ども

大正五年四月五日  
第十六卷 第四號

## 新入園兒を迎へて

一

あなたは如何なる感想を以て新入園兒を迎へらるゝや。今年も亦多勢の子供が來たと、一たびねにした新入兒といふものを迎へることも出来る。

そして、それを一室に入れて、一人二人と頭數を數へて、さて皆さん、皆さんは今日から幼稚園へ來られた。先生のいふことを、よくきかなければなりません。お家に居る時の様に我儘を言つてはいけませんと、年々歳々繰りかへされるお定りの年中行事の一つとして、何等別段の感想もなく迎へることも出来る。若し感想が起るとすれば、あの腕白には随分手がかゝりさうだ。一と通り幼稚園の生活になれさせる迄は骨の折れることだと言

つた風の、新入園兒即ち厄介者觀を以て迎へることも出来る。

しかし、一人の幼兒を新に幼稚園に迎へるといふことは、幼兒にとつても、幼稚園にとつても、重大な事件である。其の、幼兒の分と幼稚園の分とを身一つに擔ふて、保姆には餘程切實な感想の起る筈のことである。それ／＼の教育的自信があればこそ堪え得らるゝものゝ、敏感なる教育的責任感のみを以てしては、殆んど堪え難ない程の感想に胸を壓せられる筈のことである。

此の教育的責任感に基く感想は、必ずしも新入園兒に對してのみでなく、平生如何なる場合と雖も保姆の胸に充つるものである。しかも、慣れる

といふことは感じをやはらげもし、鈍くもする。一方からいへば、それでこそ日々の保育が出来てゆくといふものでもあらうが、しかも、今新しい幼児が、其の新らしい顔と聲とを以て、あなたの許に來たのである。あなたも亦新らしい心を以て迎へざるを得ない。偉大なる教育者は日々にならしき教育的感動を以て兒童に對する。平生は鈍つて居る吾々の教育的感動も、せめて此の新らしい幼児を迎へる時に當つては胸を衝いて促されて來ざるを得ない。

あなたは果して如何の感動を以て、あなたの前に立てる其の新入園兒を迎へらるゝや。

## 二

われ／＼の教育的敏感性を鈍らす原因は尠くないが、その中でも主なることの一つは、兒童を一群、一團として見ることに慣れて、其の一人を一人として注意し、洞察し、憂慮することの足りないことである。教育の理論や教育の行政上には、

『生徒』、『兒童』、『幼兒』と言つた様な概念的な對象體をつくる。しかも、教育の實際に於て、現實に我等の取扱ふものは、個別的な一人々々である太郎である。花子である。決して『幼兒なるもの』ではない。家庭に於て親は決して、子供といふものや、子供の群を其の教育の對象としては居ない學校に於ても、幼稚園に於ても、眞の教育は此の現實な個別的な一人々々が對象とせられなければならぬのである。此處に始めて教育が眞に徹底し得る。現實な具象な作用としての切實な効果を一人々々の子供の上に實現し得る。之れは今更いふ迄もない知れ切つた教育上の第一原理であるがしかも我々が教育に狎れて來ると、此の明白なる原理が忘れられる。忘れられない迄も極めておぼろなものになる。對象がぼんやりして居て何處に徹底を期しやうや。そして此の徹底感の微弱がわれ／＼の教育的敏感を鈍らせて來る。もとはと言へば、子供を一人々々として注意し、洞察し、憂

慮しないからである。

といふのは個人教育をせよといふのではない。

相互的教育効果を原則とする幼稚園に於て、個人教育は寧ろ違法である。たゞわれ／＼は二十人を一組とし、三十人を一組として教育するに當つても、われ／＼の注意、洞察、憂慮は明確に區別せられ、獨立せる二十個乃至三十個の注意、洞察、憂慮でなければならぬといふのである。それは一組にあはせて一緒に教育しては居るが、どこ迄も二十なり三十なりの教育をして居るのであるからである。

此一人を一人として見る目は、一度鈍つたら恢復することが六かしい。是非とも始めから嚴密に細心に戒心されなければならぬ。すなはち幼児を始めて自分の手に受取る始めから、深く其の心を以てせられなければならない。之れ新入園児を迎ふるに當つての第一の肝要條件である。また、新入園の際に於て比較的容易に實行し得る條件で

ある。

### 三

一人を一人として迎へてこそ、其の幼児の心に充分行届いた同情と理解とを與へることが出来る。實際、幼児が始めて幼稚園生活に入る時の心持は可なり複雑なものである。幼児の氣質によつて差違があるにせよ、境遇の變化に伴ふ當然の壓迫を免れ得ないものである。自分を中心として存在するが如き父母の家から、兎に角く世間へ出たのである。其處に幼稚園教育の一つの目的が存して居るにしても、幼児の心持そのものは充分理解してやらなければならぬ。此の理解を有する保母にして、始めて其の子の爲めに母に肖るものとなることが出来る。そして、此處から出發して、終始其の子の爲に正しく幸なる保育を興へることが出来る。われ／＼は幼児の心理を熟知するといふ人で、實は一人々々の幼児を頓と理解して居ない人を見ることが必ずしも稀でない。教育上こんな不幸な

ことではない。そういふ人は學者にはなれても、母に育るものには到底なれない。假りに母といふものに育ることは出来ても、其の子の爲に母に育ることは出来ない。

一人々々の幼児は、その銘々の母の膝下から、あなたの處へ来たのである。そして今日からは、母親とあなたと二つの愛の下に、一日の半分づゝを過すのである。どんな心持で母の膝下から来たかを理解することなしに、何で適切な迎へ方をすることが出来るようぞ。

家庭から幼稚園へ、即ち幼稚園は家庭生活のついでである。ついきといふことは、幼稚園は家庭生活から出發すべきものだといふ意味である。幼稚園を家庭へつなぐのではなくして、家庭へ幼稚園がつがれるのである。木に竹はつがれぬ。其の子の家庭生活を知らずして、其の子の幼稚園をつくることは出来ない。すなはち問題は如何にして凡ての幼児を幼稚園生活といふものゝ公型に入れるべ

きかでなくして、如何にして一人々々の幼児に其の適切な幼稚園生活を提供すべきかである。而して此の問題は、新入園児を迎ふる時に於て、最も自然に、また最も痛切に考へられる。又之れを考へるに最も適當な機會なのである。

#### 四

幼稚園が家庭へつながれるものであるならば、其のつながりを最も確實にする爲には、幹たる家庭からも終始幼稚園への聯絡を計らなければならぬ。そして兩方が不離の關係に於て、活きた協力の實を擧げなければならぬ。

此のことは家庭の方から見れば、理屈もない自然の要求である。大切な我子を自分の膝下の生活から幼稚園へ送るに、送りつばなしといふことがあらう筈はない。出来ることなら毎日にも幼稚園へ来て見て、我子がどんなことをして居るか、さされて居るかを見度い筈なのである。ところが此の自然然るべきことが實は行はれない。我子が幼稚

園へ入つてから出る迄、始めと終りにたつた二度しか幼稚園へ来たことのないといふ親は少くない甚しいのになると、我子の幼稚園がどんな處か知らないのさへある。こんな有様で協力も何もあつたものではない。たゞ呆るゝの他はないのであるしかし之れも、必ずしも親が我子の教育に不熱心なといふ爲ばかりではない。矢張り毎日のことに慣れて仕舞ひ、鈍つて仕舞ふのである。其の證據には、我子が始めて幼稚園に入るといふ時、乃至其の當坐は可なりの感動を以て、此のことを考へて居るのである。中には、何を着せようか、何を穿かせようか、辨當はどんなのしようかと、こんな類の心配にのみ意を用ゐて、もう少し深い意味の教育的配慮のしようも知らない親もある。しかし、假令、着物のこと、穿きもの、ことにしかあらはれないにしても、其の心は我子の新しい生活の上に集中して居るのである。殊に平生我子の性癖などに就て、聊かでも憂慮して居る様

とのある場合には、此の新しい生活に多大の希望を囑して、どの位の熱心を以て幼稚園、殊に保姆に期待して居るか測られない。それが即ち新入園の時の親達の状態である。幼稚園は、親達の此の心を堅く捉へなければならぬ。それを逸せしめ、滅却せしめる様のことのない様に、細心な工夫をしなければならぬ。

幼稚園と家庭との聯絡難は、始終起る問題である。幼稚園が家庭の不熱心を嘆ずる聲も屢々聞く處である。しかし、此の問題の解決は、新入園の時から企てられなければならない。親の教育的熱心が最もよく燃焦して居る此の好機會を逸して、再び強めて之れを燃焦させようとしても中々難い彼の形式的に行はるゝ保護者會に於て、親が今更の様に我子の教育の大切なことを先生なる他人から説き聽かせられなければならないのは、寧ろ滑稽なことである。其の効果の極めて少いのも無理のないことである。

新入園の時に於て、あなたは幼児と共に其の家庭を捉へることを、必ず忘れてはならない。よろしう御座います。お引受致しましたと言つた類な軽い調子で、折角く教育的に可なり緊張して居る親達の心を、うか／＼と弛緩させて仕舞つてはならない。大學の入學には新學生に宣誓をさせる。幼稚園では幼児に入園の宣誓をさせることが出来ない代りに、其の親、少くも母親には、充分嚴重な精神的宣誓をさせるべきである。此の精神的宣誓の實なくして、幼稚園は其の幼児を到底完全に引受けることは出来ない。何も形式的に宣誓式を行つて、判を押させた處で仕様もないが、先づ此の心持を以て新入園を充分確乎たる教育的出發點としなければならぬ。

## 五

歴史的には幼稚園が何時から創まつて居るにしても、あなたが幼稚園教育に何年従事して居るにしても、幼児の爲には新入園の時から幼稚園が始

まるのである。また其の幼児の爲には、あなたも此時から始めて保母になるのである。考へて見れば大に心を新たにせられざるを得ない。

袖振りあはすも多少の縁といふ。受持ちの先生となり、我が幼児となる。之れが容易な縁であらうか。茲に其の子とあなたとが結ばれたのである。其の子の親とも結ばれたのである。其の子の生涯に重要な關係を持つ教育的出發點があなたの手に托せられたのである。あなたの保母としての意識は、實にこゝに新しい感動を促されるのである。あなたの教育的敏感性は常に潑刺として寸時も鈍ることがあつてはならないが、新入園児を迎ふるといふ此の最好機會に於て、更に一新せられざるを得ない。(倉橋生)